

防災を考える市民の会
機関紙 第 74 号
2009 年 1 月 1 日

はん しょう
鐘 鉦

連絡先 宇治市宇治下居 4-7
京都建築労働組合宇治支部
電話 0774-24-2223

新年を迎え本年も皆様とともに、市民のための防災のあり方を多いに考えて参りたいと思います。御支援、御協力よろしくお願い致します。



2009 年 1 月 1 日 防災を考える市民の会 事務局一同

阪神大震災から 14 年 メモリアル特別企画

**大戸川ダム、天ヶ瀬再開発は本当に必要な事業か
今、改めて地震・断層、治水、景観問題を検討**

防災シンポ 1月18日(日) 午後2時から開催します

今年の 1 月 17 日で阪神淡路大震災から 14 年目を迎えます。大震災を風化させないために、メモリアル特別企画として「防災シンポ」を開催いたします。

今年は、

☆紺谷事務局長が新しい文献資料に基づく宇治の活断層及び整備局資料を分析した槇島堤防の危険性について

☆国土研宇治川調査団より京都府技術検討会中間報告の内容と問題点について

☆吉原 稔・弁護士より、新幹線栗東新駅起債差止訴訟、県営ダム建設差止裁判等々連戦連勝を重ねる闘いの秘訣について報告をお願いしています。

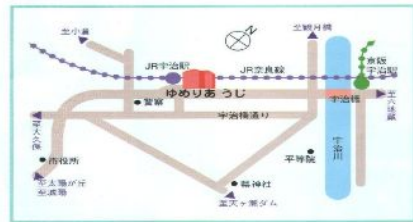
このビックな 3 つの報告は、ひどすぎる政治のもとで変革を願う国民、市民の皆様にご自信と元気をお届けできる新しい年の門出に相応しいシンポになると確信しています。

そして私たちが大震災の教訓から何を学び、何をなすべきかについて交流を深めたいと思います。ぜひご参加ください。

尚、終了後、講師を囲む懇談会（実費 3 千円）も予定しています。お気軽にご参加くだ

1 月 18 日防災シンポ ご案内

日 時 1 月 18 日 (日) 2 時～5 時
場 所 ゆめりあ宇治 会議室 1



電話 39-9377 JR 宇治駅前です。

参 加 直接会場にお越しください。尚、資料代等 500 円のカンパをお願いします。
報告内容

《宇治の活断層と槇島堤防の新たな分析結果》 紺谷吉弘・「会」事務局長
《京都府技術検討会報告の問題点》

国土研宇治川調査団より

《永源寺ダム裁判等で連戦連勝・闘い勝利の方程式》 吉原 稔・弁護士

この他に、地元選出 4 人の府会議員の皆様にもご発言を要請しております。

参加者の皆様も含め多めに議論したいと考えています。

さい。参加していただける方は、事前に「会」連絡先か役員までご連絡ください。

「大山崎の水を考える会」が天ヶ瀬ダム・大戸川を調査見学に 再開発 430 億円の巨大放水路トンネル、ダム老朽化での工事中に驚きの声

12月8日（月）大山崎の水を考える会の一行がバスで国がすすめる天ヶ瀬ダム再開発問題、宇治川1, 500トン/毎秒放流問題の調査・見学に来宇されました。

見学会は、宇治川・槇島堤防、塔の島、天ヶ瀬ダム周辺などを見学。志岐代表（右写真はJR鉄橋下流で、下の写真は宇治橋上で説明）等が再開発事業の概要と景観破壊の問題点などについて詳しく説明しました。

見学会参加者は、430億円もかけて建設する巨大放水路の内容に驚くと共に、宇治川1, 500トン/毎秒放流計画が宇治市



民をはじめ下流住民にとっていかに危険なものであるかを実感していただくとともに、訪れた天ヶ瀬ダムが老朽化のために工事中、通行止め（下の写真）看板が立てられていることにビックリ。50年を経たダムの老朽化と周辺の地盤の弱さ、断層上に存在する天ヶ瀬ダムの安全性に対する不安の声がされていました。

大山崎の水を考える会は、1988年に

町当局が60%もの大幅値上げを提案するなどの中で結成され、現在は、大幅赤字の要因である府営水問題で裁判闘争も行っています。

同会は、毎月、水問題連続講座を開催されており、1月19日午後2時から「大山崎の水問題に関わる課題、解決の展望」、2月9日には「地産地消の水・地下水はなぜ日本の水道から消えるのか」の講座を予定されています。

詳細は大山崎の会連絡 057-957-4218 皆川さんまでお問い合わせください。



地方紙の報道にみる「4知事の大戸川ダム中止意見書問題」 「治水に対しては限定的」「今までの歴史を振り返っても緊急に 着手すべき事業ではない」と府議会で山田知事明言

- ① 11月11日(火) 大戸川3知事建設求めないの報道で地元府議談 城南新報報道
公明・必要性の認識をどう考えているのか。もう少し説明を聞きたい。
共産・大戸川ダムの件は一定評価するが、天ヶ瀬ダム再開発などが盛り込まれており、この点は追求したい。
民主・天ヶ瀬ダムは1500トで改修して、最初は1200トだけ流せばいい。大戸川ダムは必要だが、天ダムの不足分を考え、あとから説明すればいい。整備計画と同時にするものではない。まずは堤防補強をすべき。
自民・知事は「三方一両損」と言われたが、損だけをしたのは府ではないのか。大戸川は直接宇治川(瀬田川)に入ってくる。全体をみて必要な事業」
- ② 11月12日(水) 大戸川ダム建設に反対 河川整備4府県知事 共同意見を発表 宇治・久御山首長「遺憾」表明 城南新報報道
宇治市長「堤防強化、河床掘削、天ダムの洪水調節用量など全て揃って宇治川の治水安全度が保たれる。優先順位が検討されることは止むを得ないが、氾濫原である巨椋池干拓地を抱えている市としては大変遺憾」 府の技術検討会で喜撰山ダム活用の代替案が示されたことに関して「民間の発電施設であり、揚水に要する時間的な課題から実効性が十分に担保されているのか非常に疑問。その効果の検証もせず今回の判断は地域の生命と財産を軽視している。」と批判。
久御山町長「当該地域で想像を超える降雨により天ヶ瀬ダムの洪水調節機能が失われる事態となれば、本町は再び53年と同様の災害に見舞われることとなり、今回の4知事の合意については誠に遺憾」
整備局が宇治市に示した資料によると天ダム再開発のみで大戸川ダムを整備しない場合、15パターン中9パターンで天ダムの容量が不足する結果となっており、これをどうクリアするのか、宇治川洪水の安全性確保策が注目される。と報道。
- ③ 11月14日(金) 前窪府議・天ダム再開発で質疑 洛南タイムス報道
前窪「脆弱な堤防、天ヶ瀬ダム周辺の活断層調査や景観、環境調査を府の技術検討会ではやっていない。住民不安に対し、独自調査をすべきだ。」
知事「共通理解として、天ヶ瀬ダムは琵琶湖の後期放流、水害被害の軽減に大変有用とみんな理解しており、今回の合意に至ったもので、観光や景観、地層、地質についても地元に対して、十分な配慮を求めた上で、建設を進めるべきと考えている。」
同城南新報報道 前窪府議・天ダム再開発で質疑

前窪「府のダム負担額はどうなっているのか。費用対効果を府民に説明すべき」

知事「河川整備計画は費用対効果というよりは、安全をいかにして確保するかということが一番大切。試算による府の負担額は大戸川ダム 58 億円、天ヶ瀬ダム再開発 67 億円、川上ダム 47 億円」と答弁。

前窪「天ダム再開発は堤防決壊の危険性が大きく、断層帯が活断層ではないとも言えない。容認でなく、更なる検討をすべき。水道料金に転嫁される水利権も放棄すべきだ。」

知事「天ダム再開発は安心・安全のためには大変重要なもの。水利権確保は宇治市民をはじめ、府民の皆さんの安心・安全を図る上で極めて大切である」と述べた。

④ 11月25日(火) 防災を考える市民の会「天ヶ瀬ダム再開発事業」の中止・見直しを4知事等へ要請

⑤ 12月5日(金) 村田府議「宇治川治水の確保で厳しく質す」洛タイ報道

村田「大戸川ダムを計画に位置付ける必要はないとしたが、宇治川流域市町村は建設を強く求める意見を提出しており、今後、府として国に正式意見を提出することになるが、宇治市や久御山町にどのように説明をした上で、意見のとりまとめを考えているのか」と厳しく質した。

知事「引き続き、両市町の理解を得ながら、宇治川堤防強化の範囲の拡大などの意見も個別意見として入れ、府意見を取りまとめたい」とした。

同城南新報報道 宇治川堤防強化範囲拡大を意見に

村田 大戸川ダムを「淀川水系河川整備計画に位置付ける必要なし」と4知事が共同意見をまとめたことに対し、地元市町と相反している点を指摘された。

知事は「合意発表後、部長と技術的な話をした。引き続き市町の理解を得て、宇治川堤防強化範囲の拡大などを府意見としてまとめたい」と答えた。

⑥ 12月11日(木) 村井府議 一般質問「大戸川ダムに緊急性ない」城南新報報道

知事「あれもやる、これもやるというのは聞こえが良いが、現実は一体どうなっているのか。施策の優先順位を考慮すると、大戸川ダムは今までの歴史を振り返っても緊急に着手すべき事業ではない」と説明した。

村井府議 「大戸川ダムの効果は限定的」を確認 洛南タイムス報道

知事 鹿跳溪谷や丹生ダムについては総工費さえ明らかではなく、あれもやるこれもやるという国交省の姿勢を暗に批判。「宇治川沿川の安心・安全を確保するには、まず早急に治水効果が発現する塔の島の改修、宇治川下流・3川合流部の堤防強化や河道改修を行い、その上で天ヶ瀬ダム再開発を実施することが最も現実的かつ効果的であるというのが、河川工学の第一人者を座長にいただく京都府の技術検討委員会の検討結果」と説明。大戸川ダム建設の効果についてはあらためて「治水に対しては限定的」「今までの歴史を振り返っても緊急に着手すべき事業ではない」という4知事合意内容を伝えた。河川の安全性については「順序が違うのではないか」という見解を譲らなかった。

宇治・防災を考える市民の会が 4 知事と宇治市長へ

再開発中止・見直しの要請書を11月25日に送付

京都府知事 山田 啓二 様 滋賀県知事 嘉田由紀子 様 大阪府知事 橋下 徹 様
三重県知事 江畑 賢治 様 宇治市長 久保田 勇 様

宇治市民の生命・財産・生活に危険をもたらす「天ヶ瀬ダム再開発事業＝430億円の巨大放水路トンネル建設」の中止・見直しを改めて要請する。

2008年11月25日

宇治・防災を考える市民の会 代表 志岐 常正

京都、大阪、滋賀、三重の4府県知事は、2008年11月11日、国土交通省近畿地方整備局が計画している淀川水系の4ダムについての意見を共同で表明した。その中には大戸川ダム建設に反対する内容が含まれており、「地域のことは地域で決める」地方自治の姿勢の具体化として評価する意見が、一般に多いようである。しかし、ことはそう簡単ではない。問題は、大戸川以外の3ダムについては建設容認を明確にしているからである。

我々「宇治・防災を考える市民の会(略称)」は、かねて宇治川に関わる諸問題につて、宇治市民の立場から検討を進めてきた。その結果少なくとも宇治川に関する限り、国交省の現在の整備計画がずさんなものであり、とくに天ヶ瀬ダムの放流量”増強”計画にいたっては、宇治市民の生命を危険にさらし、生活環境に重大な結果をもたらすものであることを確信するに至った。我々はこのことを近畿整備局やそれに属する関係河川事務所、京都府、宇治市などの行政当局に伝え、その確信の理由を具体的に説明し、行政がその内容を判断に生かしてもらうことを要請、期待した。この内容は、当然ながら、それぞれの担当者の約束どおり、それぞれの首長にも伝えられた筈である。

しかし、今回の4知事の言明は、この我々の期待に全く反している。そうして、「流す水量に関する上下の利害の調節に最も苦労した」と報じられているあたり、宇治川問題の現状、実態についての我々の指摘は、はたしてどこまで検討し、理解しようとしたのか疑われる。

河川を含め、国土整備に関する意見が立場によって違うことはあり得る。その違いが何によるものであるかを明らかにし、問題の解決を目指すためには、情報の共有が必要である。その際には地元に住む住民の検討・研究結果を聴き理解することが何よりも重要である。今回の4知事の判断に際しては、この必要不可欠のことがないがしろにされたと言わざるをえない。これは民主主義の基本に関わることであり、知事たちが唱えている”地方分権”の実際の意図を疑わせるに充分である。

ことは住民の100年200年にもわたる安全にと生活に関わる。過ちは改められねばならない。我々は4知事がこのことに気づき、反省し、我々住民の怖れるところ、明らかにしたところを聴くことを、ここに改めて強く要求するものである。

あわせて、宇治市長をはじめ流域自治体首長等がここにきて、「ダム推進の要請」を強めている。11月21日には国に「ダム推進の要望書」を提出し、金子国交相から「知事より前に、地元の声の聞きかたかった。」とエールを受けている。

しかしながら、河川整備計画をめぐることは、整備局が設置した「塔の島付近の検討委員会」(委員長 芦田和男・京都大学名誉教授)に、宇治市は委員を出していながら、その委員は一度も会議に出席せず、代理参加者からもいっさい発言もされなかった。意見を言うべきときに何も言わず、後から国の言い分だけを鵜呑みにした行動・発言は、あまりにも無責任と言わざるをえない。

9月27日、国交省近畿地方整備局の諮問機関である淀川水系流域委員会は、第82回委員会で意見書案をまとめたが、その中で天ヶ瀬ダム再開発事業は、①淀川における流量増対策としての効果は限定的であり、緊急性は低い、②天ヶ瀬ダム再開発は、三川合流点の水位の状況によっては、宇治川の安全度を低下させる、と述べている。

宇治川 1500 トン毎秒の計画を強行すれば景観、環境がさらに破壊されることがあまりにも明らかになったことから、「塔の島付近の検討委員会」(委員長 芦田和男・京都大学名誉教授)は議論を棚上げにしたまま休会になっている。

新聞報道によれば、11月21日に国の文化審議会は、宇治市の宇治川や周辺市街地の景観を重要文化的景観に選定するよう塩谷文部科学相に答申した。対象は世界遺産の平等院、宇治上神社を含む宇治川周辺や周辺市街地、周辺の茶園などで、自然と歴史、伝統産業が複合的に結びついた景観として評価されたとのことである。

このような状況の下で、宇治橋周辺の景観を破壊する1500トン放流は到底認められるものではない。まして、河川法の主旨や法定協議会である流域委員会の判断も理解せず、大戸川ダム1080億円、天ヶ瀬ダム再開発事業430億円など莫大な負担を国、自治体、住民に押し付ける流域自治体の首長等の行動は、容認できない。宇治市長をはじめ流域自治体首長は「ダム推進の要望書」を取り下げるべきである。

以上

ご案内

宇治市歴史資料館より 宇治川に関する新刊書2冊が発刊される 宇治川、塔の島の原風景がわかる貴重な写真で一杯です

この度、宇治市歴史資料館より宇治川に関する図書『流域紀行 宇治川の原風景をたずねて』(右写真)と『宇治川十帖川をめぐる十の物語』2冊が発刊されました。

いずれも宇治川の昔の写真が一杯で、現在の宇治川は、河川整備計画で大きく姿が変えられており、琵琶湖後期放流1,500トン/秒の実施のために、さらに河床掘削や橋島の切り下げなどが強行されようとしています。かつての宇治川を知る上で貴重なものです。

この2冊の図書は、1冊500円と買いやすく、JR宇治駅前観光案内所や近鉄大久保駅構内観光案内所等で好評販売されています。

詳細は、宇治市HP(画面左欄「教育文化・生涯学習・スポーツ」の項をクリックし、次画面の「宇治市歴史資料館」をクリック)でご覧下さい。

宇治市役所HPは <http://www.city.uji.kyoto.jp/> です。

